「川大切にしたい」

児童、祝子川の水質調査

延岡・黒岩小

川のきれいさ確かめよう」。延岡市の黒岩小（西森敏弘校長、27人）の全児童が10日、大野町の桑平橋上流の祝子川の水質を調査した。透明度を見たり、においをかいだり、水生生物を捕まえたりして、身近な自然の豊かさを学んだ。

同市生活環境課が環境学習の一環で講師を務め、水質調査を行っており、同校では初めて実施。最初に川の水を、高さ130㌢、直径約5㌢の透明な円柱形の透視度計に入れて、底の十文字が見えるかを確認。児童たちは中をのぞき込み、「見えた」と声を上げていた。

川の有機物に反応する薬剤を使って化学的酸素要求量（COD）を調べるパックテストでは、水をパックに入れて2分後の水の色を観察。水は薬剤と反応してピンク色になり、川のきれいさを確かめた。

最後に、水中にすむ虫を捕獲。足首まで川に入り、石の裏に隠れている虫を捕ったり、網で小魚をすくったりした後、種類別に分けて名前を確認した。カワゲラやトビケラなどが捕まっていた。

2年の梅田玲衣菜さん（8）は「こんなに虫がいるなんてびっくり。川を大切にしたい」と話していた。

祝子川に足首までつかって虫を捕まえ、きれいさを確認する児童ら